

1. 本授業科目の基本情報

講義名（コード）	TGB207	ビジネス英語Ⅲ	
科目名（コード）	TGB207	ビジネス英語Ⅲ	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	GB2+DB2	単位数	2単位30
授業担当者	福島 ジェニー	時間数	
成績評価教員	福島 ジェニー	講義期間	春期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄			

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	The objective of this class is to enhance students' English vocabulary from mid-frequency to high frequency by introducing and reinforcing 600 essential words and other additional target words. This enable the
全体の内容と概要	Each lesson targets the vocabulary that they need to learn with each definitions and word functions. Students will apply the acquired knowledge in each given exercises for application and memory retention. The reading
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	授業スケジュールと内容は、進行状況や祝日や学校行事等との兼ね合いで調整される可能性がある。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	Enable the students to acquire useful vocabulary from average to high	Unit 1: Social Media- Word list; Exercises; Reading Comprehension; Class
2	Enable the students to acquire useful vocabulary from average to high	Unit 2: Enhanced Weathering-Word list; Exercises; Reading Comprehension
3	Enable the students to acquire useful vocabulary from average to high	Unit 3: Le Chambonsur-Lignon-Word list; Exercises; Reading Comprehension
4	Enable the students to acquire useful vocabulary from average to high	Unit 4: Women in Tech-Word list; Exercises; Reading Comprehension
5	Enable the students to acquire useful vocabulary from average to high	Unit 5: Impressionism-Word list; Exercises; Reading Comprehension
6	Enable the students to acquire useful vocabulary from average to high	Unit 6: Anzac Day-Word list; Exercises; Reading Comprehension
7	Enable the students to acquire useful vocabulary from average to high	Unit 7: Endangered Languages-Word list; Exercises; Reading Comprehension
8	Enable the students to acquire useful vocabulary from average to high	Unit 8: The Ketogenic Diet-Word list; Exercises; Reading Comprehension;
9	Enable the students to acquire useful vocabulary from average to high	Unit 9: The Bachelor's Lesson-Word list; Exercises; Reading Comprehension
10	Enable the students to acquire useful vocabulary from average to high	Unit 10: The Corrupt Administrator-Word list; Exercises; Reading Comprehension
11	Enable the students to acquire useful vocabulary from average to high	Unit 11: A Famous Accident- Word list; Exercises; Reading Comprehension
12	Enable the students to acquire useful vocabulary from average to high	Unit 12: Bethoven's Gift-Word list; Exercises; Reading Comprehension
13	Enable the students to acquire useful vocabulary from average to high	Unit 13: A Day Without Sight-Word list; Exercises; Reading Comprehension
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	4000 Essential English Words 4
参考文献・資料等	
備考	An instructor may provide supplementary materials.

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	企業財務分析論 I		(TGB221)
講義名（コード）	企業財務分析論 I		(TGB221)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネス/デジタルビジネス	単位数	2
授業担当者		時間数	30
成績評価教員		講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義・演習

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	社会人(しゃかいじん)として最低限(さいていげん)必要(ひつよう)な会計(かいけい)財務(ざいむ)の知識(ちしき)を自分(じぶん)のものとして身(み)につける Acquire accounting/finance knowledge minimum required for a business person
全体の内容と概要	主要(しゅよう)な財務(ざいむ)分析(ぶんせき)について実習(じっしゅう)を通して(とおして)学び(まなび)、問題点(もんだいてん)を指摘(してき)する Learn major financial analysis/index through exercise.
授業時間外の学修	前回学んだ内容について、自分の生活でどのように生かされるのかを考える Think about how you can integrate what you learned at the previous class into your own monetary plan.
履修上の注意事項等	学んだ(まなんだ)事(こと)を図(ず)に描ける(かける)、例(れい)を挙げられる(あげられる)ように心掛ける(こころがける) Try to enable you to draw a picture/raise your own examples on the theory/index you have learned.

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	経営(けいえい)分析(ぶんせき)とは何か?を理解するWhat is financial analysis?	経営(けいえい)分析(ぶんせき)の定義(ていぎ)・範囲(はんい)・役割(やくわり) Roles/definition/scope of financial analysis
2	簿記(ぼき)の仕組み(しくみ)を理解する Mechanism of book-keeping	簿記(ぼき)と財務(ざいむ)分析(ぶんせき) book-keeping and financial analysis
3	決算書(けっさんしょ)の種類(しゅるい)を理解する Varieties of financial statements	貸借(たいしゃく)対照表(たいしょうひょう)、損益(そんえき)計算書(けいさんしょ)、キャッシュフロー計算書(けいさんしょ)の関係(かんけい) Relationships among balance sheet, Profit and Loss statement, and Cash-flow sheet
4	貸借(たいしゃく)対照表(たいしょうひょう)の基本を理解する Balance sheet	貸借対照表とは何か? What is a balance sheet?
5	損益(そんえき)計算書(けいさんしょ)の基本を理解するProfit and loss statement	損益計算書とは何か? What is Profit and Loss statement?
6	収益性(しゅうえきせい)分析(ぶんせき)を理解する Profitability analysis	収益性とは何か? What is profitability?
7	総資本(そうしほん)経常(けいじょう)利益率(りえきりつ)を理解する Return of assets	総資本とは何か? What is a total capital?
8	自己(じこ)資本(しほん)当期(とうき)純利(じゅんり)益率(えきりつ)を理解する Return of Equity	自己資本とは何か? What is equity?
9	効率性(こうりつせい)分析(ぶんせき)を理解する Efficiency analysis	効率性とは何か? What is efficiency?
10	総資本(そうしほん)回転率(かいてんりつ)を理解する Turn-over ratio of total assets	総資本とは何か? What is total asset?
11	在庫(ざいこ)回転率(かいてんりつ)を理解する Inventory turn-over ratio	在庫とは何か? What is inventory?
12	固定(こてい)資産(しさん)回転率(かいてんりつ)を理解する Turn-over ratio	固定資産回転率とは何か? What is turn-over ratio of fixed assets?
13	安全性(あんぜんせい)分析(ぶんせき)を理解する Stability analysis	企業の安全性とは何か? What is a company's safety?
14	自己(じこ)資本(しほん)比率(ひりつ)を理解する Equity ratio	企業の自己資本とは何か? What is a company's equity?
15	前期(ぜんき)試験(しけん) 1ST Term Test	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	100分でわかる! 決算書分析超入門
参考文献・資料等	実際(じっさい)の会社の決算書(けっさんしょ)などを都度用意(つどうい)する Prepare actual financial sheets as required
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	グローバル産業研究 I	配当学年	2学年
講義名（コード）	グローバル産業研究 I	単位数	2
対象学科	グローバルビジネス学科	時間数	30
対象コース	グローバルビジネスコース	講義期間	春期
専攻		履修区分	必修
授業担当者		授業形態	座学
成績評価教員		実務者教員	○
実務者教員特記欄	本授業は、実務家教員による授業である。		

2. 本授業科目の概要	
目的（位置づけ）	今日のサイバー空間で起きるサイバー犯罪の実態を理解したうえでそれに備えるためのセキュリティ技術やコンプライアンス規準についての基礎知識を身につける
到達目標	情報管理上およびネットワークセキュリティ上の押さえておくべき基礎的知識、運用ルールの基礎を習得する
全体の内容と概要	講義と事例研究中心での授業
授業時間外の学修	
履修上の注意事項	
特記事項	Udemy サイバーセキュリティ入門、初めの一步！

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画			
回	日程	講師	授業内容
1	4月19日	(株)セキュビット 増村 様	自己紹介 リスクマネジメントとは/リスクマネジメントと企業経営
2	4月26日	(株)セキュビット 増村 様	情報セキュリティリスクとは 情報セキュリティリスクの顕在化（事故事例）
3	5月3日	授業なし	
4	5月10日	(株)セキュビット 増村 様	情報セキュリティスタンダード ISMS等の認証、NIST等の標準規格
5	5月17日	(株)セキュビット 増村 様	サイバー攻撃に関して 昨今のトレンド、攻撃手法、サイバー犯罪エコシステム
6	5月24日	課外活動のため休講	
7	5月31日	(株)セキュビット 増村 様	情報セキュリティマネジメント 企業の情報セキュリティへの取り組み 1+2
8	6月7日	(株)セキュビット 増村 様	情報セキュリティ対策のアプローチ 物理的対策
9	6月14日	(株)セキュビット 増村 様	情報セキュリティ対策のアプローチ 技術的対策 人的対策
10	6月21日	全校バス旅行	授業なし
11	6月28日	(株)セキュビット 増村 様	インシデント対応 CSIRT、インシデント対応訓練
12	7月5日	(株)セキュビット 増村 様	情報収集 スレッドインテリジェンス、脆弱性情報収集・対応
13	7月12日	(株)セキュビット 増村 様	セキュリティコミュニティ 団体、会議体、カンファレンス
14	7月19日	(株)セキュビット 増村 様	試験もしくは最終レポート作成・提出
15	7月26日	(株)セキュビット 増村 様	追試

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	TGB_ビジネスマナーⅢ		（ TGB241 ）
講義名（コード）	TGB_ビジネスマナーⅢA		（ TGB241A ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	GB2	単位数	2単位
授業担当者	高橋春子	時間数	30時間
成績評価教員	高橋春子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際化やデジタル化が進む社会で求められる人材となるために、就活やビジネスの現場に必要な知識やマナーとその背景・理由を理解し、実践スキルを学ぶことを目標とする。
全体の内容と概要	就活や社会人に求められるビジネスマナーやコミュニケーション能力について、具体例から学び、自ら考え、ワーク等を取り入れて身につける。
授業時間外の学修	自分の卒業後の進み道について具体的に考え、実践する姿勢を持つこと。
履修上の注意事項等	出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	イントロダクションとビジネス・マナーの必要性を学ぶ	当授業の目標と内容について説明する。就活や社会人になぜビジネスマナーが必要なのか、近年の就活スケジュールと併せて確認する。
2	第一印象の大切さを理解し、自分を表現する方法を学ぶ	第一印象の重要性についてメラビアンの方則等から理解し、就活やビジネス・コミュニケーションに活かせるようにする。
3	GWの為 課題提出	詳細は事前の授業で説明する。
4	就活のマナーについて学ぶ①	会社説明会や面接でのマナーについて、基本的な立ち振る舞いや言葉遣い等を学び実践練習を行う。
5	就活のマナーについて学ぶ②	会社説明会や面接でのマナーについて、基本的な立ち振る舞いや言葉遣い等を学び実践練習を行う。
6	デジタル・ツールや電話に関するビジネスマナーを学ぶ	ビジネスでのEメールやチャット、スケジュールツール等を使用する際の注意事項や有効に使うスキルを学ぶ。
7	「社会人基礎力」について学ぶ	経産省が提唱する「社会人基礎力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）」の重要性を理解し、社会に出る心構えを学ぶ。
8	ビジネス・コミュニケーションの大切さについて学ぶ	日本の組織でのチームワークや協働の重要性について理解し、ビジネスマナー・行動様式を学ぶ。
9	社内外でのビジネスマナーを学ぶ	来客の対応や名刺の扱い方、車内やエレベータでの席次等について学ぶ。
10	傾聴の大切さについて学び、コミュニケーション力を高める	他人の意見を尊重しつつ、質問や確認することを学び、正しく聴くことを身につける。報連相についても復習する。
11	多文化コミュニケーションと日本企業の特徴を知る	多文化の背景を持つチームで働くことや、日本のビジネス習慣・マナーについて学ぶ。
12	テレワークのマナーについて学ぶ	テレワークをする時に知っておくべきビジネスマナーについて学ぶ。
13	前期期末試験前確認	前期期末試験前確認に学んだことを確認する。
14	前期期末試験	前期期末試験
15	前期期末試験 フィードバック	前期期末試験のフィードバック等

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	「改訂版 留学生・日本で働く人の為のビジネスマナーとルール（特定非営利活動法人 日本語教育研究所編、日本能率協会マネジメントセンター発行ISBN:978-4-8005-9072-5 C3034）」
参考文献・資料等	随時お知らせします。
備考	学生の希望やその他の条件により授業スケジュールを変更する場合がある。 各授業内にリアクションペーパーの提出を求めることがある。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	TGB_ビジネスマナーⅢ		（ TGB241 ）
講義名（コード）	TGB_ビジネスマナーⅢB		（ TGB241B ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	GB2	単位数	2単位
授業担当者	高橋春子	時間数	30時間
成績評価教員	高橋春子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際化やデジタル化が進む社会で求められる人財となるために、就活やビジネスの現場に必要な知識やマナーとその背景・理由を理解し、実践スキルを学ぶことを目標とする。
全体の内容と概要	就活や社会人に求められるビジネスマナーやコミュニケーション能力について、具体例から学び、自ら考え、ワーク等を取り入れて身につける。
授業時間外の学修	自分の卒業後の進み道について具体的に考え、実践する姿勢を持つこと。
履修上の注意事項等	出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	イントロダクションとビジネス・マナーの必要性を学ぶ	当授業の目標と内容について説明する。就活や社会人になぜビジネスマナーが必要なのか、近年の就活スケジュールと併せて確認する。
2	第一印象の大切さを理解し、自分を表現する方法を学ぶ	第一印象の重要性についてメラビアンの方則等から理解し、就活やビジネス・コミュニケーションに活かせるようにする。
3	GWの為 課題提出	詳細は事前の授業で説明する。
		会社説明会や面接でのマナーについて、基本的な立ち振る舞いや言葉遣い等

4	就活のマナーについて学ぶ①	を学び実践練習を行う。
5	就活のマナーについて学ぶ②	会社説明会や面接でのマナーについて、基本的な立ち振る舞いや言葉遣い等を学び実践練習を行う。
6	デジタル・ツールや電話に関するビジネスマナーを学ぶ	ビジネスでのEメールやチャット、スケジュールツール等を使用する際の注意事項や有効に使うスキルを学ぶ。
7	「社会人基礎力」について学ぶ	経産省が提唱する「社会人基礎力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）」の重要性を理解し、社会に出る心構えを学ぶ。
8	ビジネス・コミュニケーションの大切さについて学ぶ	日本の組織でのチームワークや協働の重要性について理解し、ビジネスマナー・行動様式を学ぶ。
9	社内外でのビジネスマナーを学ぶ	来客の対応や名刺の扱い方、車内やエレベータでの席次等について学ぶ。
10	傾聴の大切さについて学び、コミュニケーション力を高める	他人の意見を尊重しつつ、質問や確認することを学び、正しく聴くことを身につける。報連相についても復習する。
11	多文化コミュニケーションと日本企業の特徴を知る	多文化の背景を持つチームで働くことや、日本のビジネス習慣・マナーについて学ぶ。
12	テレワークのマナーについて学ぶ	テレワークをする時に知っておくべきビジネスマナーについて学ぶ。
13	前期期末試験前確認	前期期末試験前確認に学んだことを確認する。
14	前期期末試験	前期期末試験
15	前期期末試験 フィードバック	前期期末試験のフィードバック等

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	「改訂版 留学生・日本で働く人の為のビジネスマナーとルール（特定非営利活動法人 日本語教育研究所編、日本能率協会マネジメントセンター発行ISBN:978-4-8005-9072-5 C3034）」
参考文献・資料等	随時お知らせします。
備考	学生の希望やその他の条件により授業スケジュールを変更する場合がある。 各授業内にリアクションペーパーの提出を求めることがある。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネス実務Ⅲ		TGB235
講義名（コード）	TGB_ビジネス実務Ⅲ		TGB235
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者		時間数	30
成績評価教員		講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	・人間力における、社会人教育分野の学びの中で、学生が自己理解と自己管理能力向上を基礎に、現代社会でキャリアを発展させるに必要なビジネス実務の知識の習得を通してビジネス社会での一般的実務を理解できるようになる。
全体の内容と概要	・ビジネス社会において相手を理解し、より良い交流をするために不可欠なビジネスコミュニケーション能力を世界に通用するグローバルスタンダードである「プロトコール」を通して学ぶ。
授業時間外の学修	・授業開始までに、必ず一読してくること。 ・復習課題としてレポートの提出を求めています。
履修上の注意事項等	・ビジネスコミュニケーション「プロトコール」の授業であると心得、授業中の態度、及び言葉遣い等に気をつけること。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	・授業への取組、資格取得に向けてモチベーションをあげる	・オリエンテーション・授業の受け方/予習復習への取組等について ・マナー・プロトコール検定取得について
2	・マナーとビジネスキャリアについて理解する1/3	・マナー・プロトコールとは何か ・プロトコールを学ぶ意義
3	・マナーとビジネスキャリアについて理解する2/3	・マナーの歴史と成り立ち ・西洋のマナー
4	・国際人としてのプロトコールを理解する3/3	・エチケットの成り立ち ・公式な場でのプロトコール
5	・国際人としてのプロトコールを理解する1/2	・社交の場でのコミュニケーション ・外国の慣習やしきたりに配慮する
6	・国際人としてのプロトコールを理解する2/2	・自国の文化を紹介する・贈り物の習慣 ・自国の文化を紹介する
7	・企業が求める人材について理解する	・会社のしくみ ・社会人に必要な要素・仕事の進め方
8	・顧客満足とプロのサービスを理解する	・顧客満足の重要性 ・トラブル対応と顧客満足
9	・ビジネスシーンのマナーを理解する1/2	・好感度とマナー ・敬語と、好感の持てる表現
10	・ビジネスシーンのマナーを理解する2/2	・「話し方」「聞き方」の基本 ・電話対応のマナー・ビジネス文書・電子メールやファックス
11	・食事とコミュニケーションを理解する1/2	・食事の作法の基本 ・日本料理のいただき方・和室の所作
12	・食事とコミュニケーションを理解する2/2	・西洋料理のいただき方・中国料理のいただき方 ・その他の外国料理
13	・お酒のマナーを理解する	・製法による分類 ・飲酒シーンによる分類・ワインの基礎知識
14	・前期期末試験	・前期期末試験の実施
15	・前期期末試験 F B	・前期単元の総括 ・前期期末試験のフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	マナー&プロトコールの基礎知識／マナープロコトール検定問題集
参考文献・資料等	文部科学省後援マナー プロトコール 大人のマナー講座
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
講義名（コード）	TGB209A	TGB_TOEIC Ⅲ_A	
科目名（コード）	TGB209	TGB_TOEIC Ⅲ_A	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	GB 2	単位数	2単位30
授業担当者	福島 ジェニー	時間数	
成績評価教員	福島 ジェニー	講義期間	春期
実務者教員	いいえ	履修区分	講義
実務者教員特記欄			

2. 本授業科目の概要	
到達目標・目的	The class is designed to provide and educate students into a larger scale of acquisition in mastering the skills and strategies in TOEIC from vocabulary expansion, grammar terminologies,
全体の内容及概要	To develop students' test-taking skills and achieve higher test score. Enable the students to build valuable test-taking strategies, and giving them the exposure to the kind of questions they
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	授業スケジュールと内容は、進行状況や祝日や学校行事等との兼ね合いで調整される可能性がある。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	Enable the students to develop strategies to analyse and	Chapter 1: Listening Practice- Part 1 Photographs: House and Workplace / Chapter 2: Grammar Practice- Part 1 Parts of Speech and Part 2 Tenses;
2	Enable the students to develop on how to identify appropriate	Chapter 1: Listening Practice - Part 2 Questions and Response with an interrogative/ Chapter 3: Reading Practice-TOEIC Part 7: Emails and
3	Enable the students to develop on how to identify key points	Chapter 1: Listening Practice - Part 3 Short Conversations:Office Talk/ Chapter 2: Grammar Practice: Part 3 Voice and Part 4 Agreement; Mini-
4	Enable the students to develop how to identify keypoints in	Chapter 1: Listening Practice- Part 4 Short Talks: Office Announcements 1,2/ Chapter 3: Reading Practice- TOEIC Part 7: Advertisement
5	Enable the students to develop strategies to analyse and	Chapter 1: Listening Practice - Part 1 Photographs: Businesses and Other Public Places/ Chapter 2:Grammar Practice-Part 5 Infinitive and Gerunds;
6	Students will also acquire and develop their knowledge about	Chapter 1: Listening Practice - Part 2 Questions and Response with Yes/No Chapter 2:Grammar Practice-Part 6 Participles and Participles clauses;
7	Enable the students to develop on how to identify key points	Chapter 1: Listening Practice -Part 3 Short Conversations:Workplace Dilemmas/Chapter 3: Reading Practice-TOEIC Part 7: Office Memos and
8	Enable the students to develop on how to identify key points	Chapter 1: Listening Practice- Part 4 Short Talks: Speeches/ Lectures, Public Announcements/ Chapter 2: Grammar Practice - Part 7 Relative
9	Enable the students to develop on how to identify appropriate	Chapter 1: Listening Practice - Part 2 Questions and Response with Tag/Declarative/Indirect ; Chapter 3: Reading Practice-TOEIC Part 7:
10	Enable the students to develop on how to identify key points	Chapter 1: Listening Practice -Part 3 Short Conversations: Staffing Changes/ Chapter 2: Grammar Practice - Part 8 Conjunction and
11	Enable the students to develop on how to identify key points	Chapter 1: Listening Practice- Part 4 Short Talks: Telephone Messages, Advertisements / Chapter 2: Grammar Practice - Part 9 Modification
12	Enable the students to develop on how to identify key points	Chapter 1: Listening Practice- Part 4 Short Talks: Broadcasts Tours and Trips/ Chapter 3: Reading Practice -TOEIC Part 7: Text Messages and
13	Enable the students to reflect apply their knowledge and to	TOEIC Practice Test
14	期末試験	学期試験 Paper test
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	Taking the TOEIC Skills and Strategies 2
参考文献・資料等	
備考	The lesson contents may subject to change and can be adjusted based on the pace and needs of students to ensure effective acquisition of TOEIC. Additional materials may

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	外国語試験対策Ⅲ(GB)		(TGB237)
講義名（コード）	TGB_外国語試験対策Ⅲ		(TGB237)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	忍足 祐之	時間数	30
成績評価教員	忍足 祐之	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	選択
実務者教員特記欄	本講義は関連分野で活躍した講師による講義である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	英検2級合格に十分な英語力を身に付け、将来的には英検準1級の英語レベルに対応できるようになることを目指す。
全体の内容と概要	英検2級対策テキストを完全消化し、語彙力を強化する。英検用4 スキル対策を総合的に行う。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	授業スケジュールと内容は、祝日や学校行事等との兼ね合いで調整される可能性がある。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1		自己紹介、授業の目標と教材の説明
2	語彙を増やし、英検2級レベル問題で、高校英文法を整理する。	Theme 1 自然・環境 自然・環境テーマの語彙、リーディング 1
3	語彙を増やし、英検2級レベル問題のリスニング問題パターンに慣れ	Theme 1 自然・環境 自然・環境テーマの語彙、リスニング 1
4	語彙を増やし、英検2級レベル問題で、アカデミックな長文のリーディ	Theme 1 自然・環境 英検2級語彙演習、リーディング 2,3B
5	語彙を増やし、英検2級レベル問題のリスニング問題パターンに慣れ	Theme 1 自然・環境 英検2級語彙演習、リスニング 2
6	語彙を増やし、英検2級レベル問題で、アカデミックな長文のリーディ	Theme 1 自然・環境 英検2級語彙演習、リーディング 3C, ライティング
7	語彙を増やす。ライティングで自分の間違いを正せるようにする。英検	Theme 1 自然・環境 英検2級語彙演習、ライティング復習、面接対策
8	語彙を増やす。英検2級筆記試験演習でテスト時間に慣れる	Theme 1 自然・環境 英検2級語彙演習、演習問題
9	前回演習で自分の間違いに気づけるようになる。	Theme 1 自然・環境 演習問題フィードバック
10	制限時間内で問題を解くスキルを身に着ける	英検2級総合問題実施とフィードバック
11	制限時間内で問題を解くスキルを身に着ける	英検2級総合問題実施とフィードバック
12	制限時間内で問題を解くスキルを身に着ける	英検2級総合問題実施とフィードバック
13	制限時間内で問題を解くスキルを身に着ける	英検2級総合問題実施とフィードバック
14		学期試験
15		Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	よく出る5テーマ別 英検総合トレーニング2級
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	キャリアデザインⅢ		（ TGB239 ）
講義名（コード）	キャリアデザインⅢA		（ TGB239A ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	GB2	単位数	2単位
授業担当者	川本 千陽	時間数	30時間
成績評価教員	川本 千陽	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義・演習

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	学内に招致する企業・学校を調べ、主体的に就職活動や進路先を主体的に調査・発表する。
全体的内容と概要	将来のキャリアプランを主体的に考え、卒業後の進路を決定するために行動する力を身につける。
授業時間外の学修	グループワーク、発表準備、授業課題
履修上の注意事項等	進捗の状況により変更する場合があります。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	卒業までの工程を具体化し改めて目標を確認する。	進路希望調査/進路希望ごとにグループ分けして、各自の進捗状況について話し合う。マンダラチャートを使って具体的行動計画を作る。
2	グループワーク（基礎）	進路希望「進学（大学・大学院）」「進学（専門学校）」「就職」「起業」「海外留学」それぞれに分かれて自分の現在の取組みについて話し合う。
3	進学についての理解を深める①	3年次編入（国内・海外）の条件、費用、出願方法について調査する。編入先大学の情報をホームページ、進路サイトを通じて調査する。
4	就職についての理解を深める①	企業採用担当者から会社説明をしていただき「仕事のやりがい」「働き方」「募集条件」「今後の展望」「求められる人物像」を聴き、進路選択に活かす。
5	起業についての理解を深める①	起業までのプロセス、法的要件、外国人が企業するための手続きについて調査する。
6	グループワーク①	進路希望ごとにグループワーク。自身の課題を洗い出し「情報収集」「選考対策」「合格後のキャリア」について討議する。
7	企業研究を通じて社会を知る。	会社情報を知り、自己の適性を考える。ホームページや就職情報サイト等を通じて企業の魅力を知り応募する場合の書類を作成する。
8	ハローワークについて理解する。	公共職業安定所（ハローワーク）の登録方法、求人票の見つけ方、面接対策、セミナー活用法を学ぶ。
9	ハローワークについて理解する。	ハローワークの担当者より活用法を学ぶ。
10	グループワーク②	進路希望ごとにグループワーク。自身の課題を洗い出し「情報収集」「選考対策」「合格後のキャリア」について討議する。
11	在留資格について知る。	在留資格変更許可申請の方法を知る。実際に在留資格変更許可申請書を書く。
12	グループワーク③	進路希望ごとにグループワーク。自身の課題を洗い出し「情報収集」「選考対策」「合格後のキャリア」について討議する。
13	グループワークで話し合った内容を個人発表する。	個人発表をもって期末試験とし評価対象とする。ひとり当たり3分でまとめる。
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	MOS対策PPT I		（ TGB243 ）
講義名（コード）	MOS対策PPT I A		（ TGB243A ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	GB2	単位数	2単位
授業担当者	松橋 茉蓉	時間数	30時間
成績評価教員	松橋 茉蓉	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	選択
実務者教員特記欄	業務において実際に使用した経験がある	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	PowerPointについてビジネスレベルのプレゼンテーションを身につける。
全体の内容と概要	授業の進め方としては、プレゼンテーションの企画・資料作成・発表の仕方を学習する。なお、PPTの操作方法はネットや生成AIなどを使い操作を確認しながら自力での解決を目指す。
授業時間外の学修	プレゼン資料作成のタイピング速度の向上のため、タイピングアプリを使い、タイピングの速度向上に取り組む。
履修上の注意事項等	officeのバージョンによって、若干操作に誤差が出る場合がある。 PCは、学校から貸し出す。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	PPTのスキル確認	自己紹介をPPTで作成・発表を実施し、どの程度対応力があるのかを確認、作成した資料をTeams経由で提出
2	プレゼンの本質理解	プレゼンの本質理解聞き手（お客様）を説得するためのプレゼン資料作成とは
3	PPTの基本操作	1.起動、新規ファイル作成、保存、2.スライド操作、3.テキストボックス操作（前半）
4	PPTの基本操作	3.テキストボックス操作（後半）4.スマートアート、5.グラフ、図形、表、
5	PPTの基本操作	6.アニメーション、7.スライドマスター、8.その他
6	PPTの基本操作	課題
7	PPTの基本操作	課題発表
8	プレゼンの基本	聞き手（お客様）を説得するためのプレゼン作成手順
9	プレゼンの基本	プレゼンの企画書を作成
10	プレゼンの基本	プレゼンの企画書をフィードバック、プレゼン資料の作成
11	プレゼンの基本	プレゼン資料の作成
12	プレゼンの基本	課題発表
13	プレゼンの基本	課題発表
14	期末試験	期末試験実施
15	追試	追試実施

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	PDF教材
参考文献・資料等	
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

学校法人ISI学園 専門学校東京ビジネス外語カレッジ

2025年度 シラバス

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	MOS対策PPTⅡ		（ TGB244 ）
講義名（コード）	MOS対策PPTⅡB		（ TGB244B ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	GB2	単位数	2単位
授業担当者	松橋 芙蓉	時間数	30時間
成績評価教員	松橋 芙蓉	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	選択
実務者教員特記欄	業務において実際に使用した経験がある	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	PowerPointについてビジネスレベルのプレゼンテーションを身につける。
全体の内容と概要	授業の進め方としては、プレゼンテーションの企画・資料作成・発表の仕方を学習する。なお、PPTの操作方法はネットや生成AIなどを使い操作を確認しながら自力での解決を目指す。
授業時間外の学修	プレゼン資料作成のタイピング速度の向上のため、タイピングアプリを使い、タイピングの速度向上に取り組む。
履修上の注意事項等	officeのバージョンによって、若干操作に誤差が出る場合がある。 PCは、学校から貸し出す。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	PPTのスキル確認	自己紹介をPPTで作成・発表を実施し、どの程度対応力があるのかを確認、作成した資料をTeams経由で提出
2	プレゼンの本質理解	プレゼンの本質理解聞き手（お客様）を説得するためのプレゼン資料作成とは
3	PPTの基本操作	1.起動、新規ファイル作成、保存、2.スライド操作、3.テキストボックス操作（前半）
4	PPTの基本操作	3.テキストボックス操作（後半）4.スマートアート、5.グラフ、図形、表、
5	PPTの基本操作	6.アニメーション、7.スライドマスター、8.その他
6	PPTの基本操作	課題
7	PPTの基本操作	課題発表
8	プレゼンの基本	聞き手（お客様）を説得するためのプレゼン作成手順
9	プレゼンの基本	プレゼンの企画書を作成
10	プレゼンの基本	プレゼンの企画書をフィードバック、プレゼン資料の作成
11	プレゼンの基本	プレゼン資料の作成
12	プレゼンの基本	課題発表
13	プレゼンの基本	課題発表
14	期末試験	期末試験実施
15	追試	追試実施

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	PDF教材
参考文献・資料等	
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	データベースと利用技術I		(TGB245)
講義名（コード）	データベースと利用技術IA		(TGB245A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2単位
授業担当者	塩飽 研二	時間数	30
成績評価教員	塩飽 研二	講義期間	春期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本講義は関連分野で活躍した講師による講義である。	授業形態	座学

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	Excelの使い方について学び、データをまとめたり分析したりする情報処理スキルを身につける。
全体の内容と概要	数値データを整理して表やグラフを作成したり、平均値など簡単な統計量を求める。 データ処理において適切に関数や表、グラフの機能を使い、資料を作成する。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	関数の概念の理解	関数：イントロダクション 関数の役割と書式、関数の種類
2	関数を含む表が作れる	関数を含む表、合計・平均の関数、関数式の確認、関数のコピー データを見やすくする、条件付き書式
3	相対参照と絶対参照を使える	関数式を確実に入力する、関数式の修正、関数式の参照の確認 相対参照と絶対参照、関数式に絶対参照の指定、表をテーブルにする
4	累計売上を求めることができる	テーブルにデータの追加、テーブルの集計、よく使う関数 合計値を求める、平均値、最大値と最小値、累計売上
5	テーブルを集計できる	複数のシートの合計、番号の入力で金額の表示、エラーの非表示、四捨五入
6		結果を複数通りに分ける、別表から参照、データの自動表示 別表のデータを参照表示、複数の表を切り替えて参照表示
7	テーブルを参照・抽出できる	指定した範囲のデータを参照表示、データが何番目にあるかを調べる 行と列を指定してデータを探す、行と列を指定してデータを取り出す
8		範囲の中から指定した行や列を取り出す、行数と列数を指定して取り出す 指定した順位の値を取り出す、出現するデータを重複なしで取り出す
9	条件に合わせてデータを 集計できる	条件に合うデータを取り出す、データを並べ替えて取り出す 条件に合うデータの計算、数値の個数を数える、データを数える
10		条件に合うデータの合計を求める、条件に合うデータの平均を求める 条件に合うデータの最大値を求める、複数条件を満たすデータ
11		複数条件を満たすデータの合計、複雑な条件を満たす数値の件数 複雑な条件を満たすデータの合計、複雑な条件を満たすデータの最大値
12		条件に合うかどうかを調べる、表示データのみ集計 データの形を変える、特定の文字の位置、文字列の一部を取り出す
13	マクロを組むことができる	マクロを組む
14		期末試験
15		追試期間

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	書名：できるExcel関数 Copilot対応 Office 2024/2021/2019&Microsoft 365版 著者：尾崎裕子&できるシリーズ編集部 出版：インプレス
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	データベースと利用技術I		(TGB245)
講義名（コード）	データベースと利用技術IB		(TGB245B)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2単位
授業担当者	塩飽 研二	時間数	30
成績評価教員	塩飽 研二	講義期間	春期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	座学

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	Excelの使い方について学び、データをまとめたり分析したりする情報処理スキルを身につける。
全体的内容と概要	数値データを整理して表やグラフを作成したり、平均値など簡単な統計量を求める。 データ処理において適切に関数や表、グラフの機能を使い、資料を作成する。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	関数の概念の理解	関数：イントロダクション 関数の役割と書式、関数の種類
2	関数を含む表が作れる	関数を含む表、合計・平均の関数、関数式の確認、関数のコピー データを見やすくする、条件付き書式
3	相対参照と絶対参照を使える	関数式を確実に入力する、関数式の修正、関数式の参照の確認 相対参照と絶対参照、関数式に絶対参照の指定、表をテーブルにする
4	累計売上を求めることができる	テーブルにデータの追加、テーブルの集計、よく使う関数 合計値を求める、平均値、最大値と最小値、累計売上
5	テーブルを集計できる	複数のシートの合計、番号の入力で金額の表示、エラーの非表示、四捨五入
6		結果を複数通りに分ける、別表から参照、データの自動表示 別表のデータを参照表示、複数の表を切り替えて参照表示
7	テーブルを参照・抽出できる	指定した範囲のデータを参照表示、データが何番目にあるかを調べる 行と列を指定してデータを探す、行と列を指定してデータを取り出す
8		範囲の中から指定した行や列を取り出す、行数と列数を指定して取り出す 指定した順位の値を取り出す、出現するデータを重複なしで取り出す
9	条件に合わせてデータを 集計できる	条件に合うデータを取り出す、データを並べ替えて取り出す 条件に合うデータの計算、数値の個数を数える、データを数える
10		条件に合うデータの合計を求める、条件に合うデータの平均を求める 条件に合うデータの最大値を求める、複数条件を満たすデータ
11		複数条件を満たすデータの合計、複雑な条件を満たす数値の件数 複雑な条件を満たすデータの合計、複雑な条件を満たすデータの最大値
12		条件に合うかどうかを調べる、表示データのみ集計 データの形を変える、特定の文字の位置、文字列の一部を取り出す
13	マクロを組むことができる	マクロを組む
14		期末試験
15		追試期間

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	書名：できるExcel関数 Copilot対応 Office 2024/2021/2019&Microsoft 365版 著者：尾崎裕子&できるシリーズ編集部 出版：インプレス
参考文献・資料等	
備考	

学校法人ISI学園 専門学校東京ビジネス外語カレッジ

2025年度 シラバス

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	プロジェクト演習 I		(TGB255)
講義名（コード）	プロジェクト演習 I		(TGB255)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	横井 博文	時間数	30時間
成績評価教員	横井 博文	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本授業は、実務経験者による授業科目である。	授業形態	演習

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	このプロジェクト型授業は、学生が社会課題を発見・定義し、共創と実践を通じて「学びながら社会を変える」ことを目的とします。インクルーシブな視点、多様性、エモーショナル・インテリジェンス、リーダーシップとソーシャルイノベーションの原理を体験的に学びます。
全体の内容と概要	春期ではプロジェクトの基盤となるリサーチ、デザイン思考、リーダーシップ、チーム形成の土台を築きます。
授業時間外の学修	授業は講義と演習のバランスを取りながら進める。Week 5までにサービ斯拉ーニング・プロジェクトのパートナー企業・団体を選定し、協働でプロジェクトを進めること。
履修上の注意事項等	チームにて、演習・課題取り組みをするので、就職活動（公欠）も含めて、できるだけ休まずに参加すること。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	導入とアイスブレイク — 「なぜ社会を変えたいのか？」	サービスラーニングの目的を理解し、自分のモチベーションを言語化する
2	DEI（多様性・公平性・包摂性）と「誰のための社会か」	DEIの基本概念を理解し、「見えにくい声」への感度を高める
3	「社会の構造」に目を向ける視点	社会課題を個人の責任ではなく構造的に捉える力を養う
4	課題探究と共感 — 「当事者の声に耳を傾ける」	社会課題の現場に触れ、当事者理解の第一歩を踏み出す
5	課題定義 — 「何が本当の問題なのか？」	聞いた話や調査をもとに、課題を具体的に定義する
6	リサーチと当事者インタビューの設計	解決策を考える前に、現場からの追加情報を得る
7	当事者・現場インタビュー実施	実際にフィールドで話を聞き、深い洞察を得る
8	インサイトの抽出と「共感的理解」の整理	情報を整理し、当事者の立場に寄り添った課題像を描く
9	アイデア発散（ブレインストーミング）	自由で柔軟な発想からアイデアを広げる
10	アイデアの統合とコンセプト形成	アイデアを絞り、具体的なサービスやアクションの形にまとめる
11	プロトタイピングと仮テスト	簡易的なプロトタイプを使って、ユーザーの反応を観察する
12	テスト結果をもとに改善する	フィードバックから得た気づきをもとに、プロトタイプを改善する
13	実装準備とチームでの役割分担	実装に向けて、必要な人・資源・時間を整理する
14	ユーザーテスト①	アクションのミニ実施・検証（パイロット）
15	ふりかえりと中間発表準備	これまでのプロセスと学びを整理し、中間報告にまとめる

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	EQリーダーシップ 成功する人の「こころの知能指数」の活かし方（ダニエル・ゴールマン、他）
参考文献・資料等	Google流 ダイバーシティ&インクルージョン（アニー・ジャン＝パティスト）、The Nature of the Future: The Social Structured World（Marina Gorbis）、ソーシャルイノベーションの始め方（SSIR Japan）、これからの「社会の変え方」を、探しにいこう。（SSIR Japan）
備考	<u>本教員は、国内外にて（社会）起業をし、社会イノベーションの普及と推進に務めた。一方で、米国ペンシルバニア大学教育大学院博士課程（チーフラーニングオフィサー（CLO）専攻）の実務家研究員として最先端の研究にも従事している。こうした経験を活かしながら、企業団体、学校等の高等教育機関にてラーニング・組織変革の観点から指導を展開している。</u>

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネス統計学 I		(TGB259B)
講義名（コード）	TGB_ビジネス統計学 I		(TGB259B)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	GB2	単位数	2単位
授業担当者	鈴木 歩	時間数	30時間
成績評価教員	鈴木 歩	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	簿記3級の基礎を固め、試験問題を解けるようになる
全体の内容と概要	テキストを利用したインプット講義、過去問等を利用したアウトプット講義を行う
授業時間外の学修	状況により課題を課す
履修上の注意事項等	電卓の準備を推奨

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	前期の復習	導入講義
2	基礎概念の理解1	講義・演習1
3	基礎概念の理解2	講義・演習2
4	商品売買と現金取引の理解	講義・演習3
5	掛取引と手形取引の理解	講義・演習4
6	他の通期取引の理解1	講義・演習5
7	他の通期取引の理解2	講義・演習6
8	決算整理 1の理解	講義・演習7
9	決算整理 2の理解	講義・演習8
10	決算整理 3の理解	講義・演習9
11	決算整理 4の理解	講義・演習10
12	後T/Bの作成の理解	講義・演習11
13	純資産の部理解	講義・演習12
14	期末試験	—
15	フィードバック	—

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト・トレーニング 日商簿記3級
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネスコミュニケーション I		（ TGB269 ）
講義名（コード）	ビジネスコミュニケーション I B2		（ TGB269B2 ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	GB2	単位数	2単位
授業担当者	竹内通子	時間数	30時間
成績評価教員	竹内通子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が就業後の課題遂行能力を高めるために、ビジネス場面での専門的な話題でやりとりができるようになる。
全体的内容と概要	N2の文字語彙と読解を中心に学ぶ。たくさんの文章に触れ、ビジネスに必要な言葉を身につけ、ビジネス文章を素早く理解する力を身につける。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	語彙・グラフでの内容理解	必ずできる！JLPT「読解」N2 ウォーミングアップ① 20日で合格（語彙）
2	語彙・比較内容理解	必ずできる！JLPT「読解」N2 ウォーミングアップ② 20日で合格（語彙）
3		必ずできる！JLPT「読解」N2 ウォーミングアップ③ 20日で合格（語彙）
4	語彙・グラフ内容理解	必ずできる！JLPT「読解」N2 ウォーミングアップ④ 20日で合格（語彙）
5	語彙・表理解	必ずできる！JLPT「読解」N2 ウォーミングアップ⑤ 20日で合格（語彙）
6	図・表・比較内容理解	必ずできる！JLPT「読解」N2 ウォーミングアップ⑥ 20日で合格（語彙）
7	文法・接続詞・副詞理解	必ずできる！JLPT「読解」N2 1日目 20日で合格（語彙）
8	文法・接続詞・副詞理解	必ずできる！JLPT「読解」N2 2日目 20日で合格（語彙）
9	文法・接続詞・表理解	必ずできる！JLPT「読解」N2 3日目 20日で合格（語彙）
10		JLPT模試
11		JLPT模試
12	文法・図・接続詞・副詞理解	必ずできる！JLPT「読解」N2 4日目 20日で合格（語彙）
13	文法・接続詞・副詞理解	必ずできる！JLPT「読解」N2 5日目 20日で合格（語彙）
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	必ずできる！JLPT「読解」N2, 20日で合格 語彙 N2
参考文献・資料等	
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネスコミュニケーション I		（ TGB269 ）
講義名（コード）	ビジネスコミュニケーション I A		（ TGB269A ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	GB2	単位数	2単位
授業担当者	竹内通子	時間数	30時間
成績評価教員	竹内通子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が就業後の課題遂行能力を高めるために、ビジネス場面での専門的な話題でやりとりができるようになる。
全体的内容と概要	日本語能力試験N1の語彙と読解を演習形式で学び、N1レベルの日本語文章にたくさん触れ、特に「書き言葉」で書かれた文章を素早く理解できるようにする。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	案内文・手紙・随筆・小論文をすばやく読み解く力をつける	ドリル&ドリル内容理解短文 1・2番 中文1番 20日で合格N2 語彙 第1日
2	小論文・評論文を読み解く力をつける	ドリル&ドリル内容理解短文 3・4番 中文2番 20日で合格N2 語彙 第2日
3	小論文・評論文を読み解く力をつける	ドリル&ドリル内容理解短文 5・6番 中文3番 20日で合格N2 語彙 第3日
4	案内文・手紙・随筆・小論文をすばやく読み解く力をつける	ドリル&ドリル読解課題FB 内容理解短文7・8番 20日で合格N2 語彙課題FB
5	小論文・評論文を読み解く力をつける	ドリル&ドリル内容理解短文 9・10番 中文4番 20日で合格N2 語彙 第4日
6	長文を読み解く力をつける	ドリル&ドリル内容理解長文1番 20日で合格N2 語彙 第5日
7	長文を読み解く力をつける	ドリル&ドリル課題FB 内容理解長文2番 20日で合格N2 語彙課題FB
8	異なる意見を理解し、立場の違いを読み解く力をつける	ドリル&ドリル 統合理解 1番 20日で合格N2 語彙 第6日
9	長文を読み解き、筆者の意見を理解する力をつける	ドリル&ドリル 主張理解 1番 20日で合格N2 語彙 第7日
10	JLPT N1レベルの読解力をつける	JLPT模試 N1 語彙
11	JLPT N1レベルの読解力をつける	JLPT模試 N1 読解
12	案内文から必要な情報を読み取る力をつける	ドリル&ドリル統合理解2番 情報検索1番 20日で合格N2 語彙 第8日
13	前期の内容を理解し、確実に身につける	前期のまとめ
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	ドリル&ドリル読解 N1、20日で合格N2 語彙
参考文献・資料等	適宜配布
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネスコミュニケーション I		(TGB269)
講義名（コード）	ビジネスコミュニケーション I B		(TGB269B)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	GB2	単位数	2単位
授業担当者	竹内通子	時間数	30時間
成績評価教員	竹内通子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が就業後の課題遂行能力を高めるために、ビジネス場面での専門的な話題でやりとりができるようになる。
全体的内容と概要	N2の文字語彙と読解を中心に学ぶ。たくさんの文章に触れ、ビジネスに必要な言葉を身につけ、ビジネス文章を素早く理解する力を身につける。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	語彙・グラフでの内容理解	必ずできる！ JLPT「読解」N2 14日目 20日で合格（語彙）
2	語彙・比較内容理解	必ずできる！ JLPT「読解」N2 15日目 20日で合格（語彙）
3		必ずできる！ JLPT「読解」N2 16日目 20日で合格（語彙）
4	語彙・グラフ内容理解	必ずできる！ JLPT「読解」N2 ウォーミングアップ⑨ 20日で合格（語彙）
5	語彙・表理解	必ずできる！ JLPT「読解」N2 ウォーミングアップ⑩ 20日で合格（語彙）
6	図・表・比較内容理解	必ずできる！ JLPT「読解」N2 17日目 20日で合格（語彙）
7	文法・接続詞・副詞理解	必ずできる！ JLPT「読解」N2 18日目 20日で合格（語彙）
8	文法・接続詞・副詞理解	必ずできる！ JLPT「読解」N2 19日目 20日で合格（語彙）
9	文法・接続詞・表理解	必ずできる！ JLPT「読解」N2 20日目 20日で合格（語彙）
10		JLPT模試
11		JLPT模試
12	文法・図・接続詞・副詞理解	必ずできる！ JLPT「読解」N2 21日目 20日で合格（語彙）
13	文法・接続詞・副詞理解	必ずできる！ JLPT「読解」N2 22日目 20日で合格（語彙）
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	必ずできる！ JLPT「読解」N2、 20日で合格 語彙 N2
参考文献・資料等	
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	コミュニケーション I		（ TGB271 ）
講義名（コード）	コミュニケーション I B2		（ TGB271B2 ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	GB2	単位数	2単位
授業担当者	渋谷里美	時間数	30時間
成績評価教員	渋谷里美	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が就業後の課題遂行能力を高めるために、幅広くかつ抽象的な日本語の話題が理解できるようになる。
全体的内容と概要	N2レベルの文法と聴解を学ぶ。試験形式の演習を行いJLPTのN2に合格する力をつける。また、フォーマルな言い方や書き言葉を学び、状況に応じた日本語を使い分けられるようにする。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	ガイダンス 授業の進め方 ドリル&ドリルN2聴解 課題理解第1回 総まとめ 文法N2
2	N2レベルに必要な語彙、文法、慣用表現などに慣れる。	ドリル&ドリルN2聴解 課題理解第2回 総まとめ 文法N2
3	N2レベルに必要な語彙、文法、慣用表現などに慣れる。	総まとめ 文法N2 課題提出
4	場面に適した語彙や表現を正しく習得する。	ドリル&ドリルN2聴解 課題理解第3回 総まとめ 文法N2 課題提出
5	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	ドリル&ドリルN2聴解 課題理解第4回 総まとめ 文法N2
6	N2レベルに必要な語彙、文法、慣用表現などに慣れる。	ドリル&ドリルN2聴解 課題理解第5回 総まとめ 文法N2
7	場面に適した語彙や表現を正しく習得する。	ドリル&ドリルN2聴解 ポイント理解第1回 総まとめ 文法N2
8	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	ドリル&ドリルN2聴解 ポイント理解第2回 総まとめ 文法N2
9	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	ドリル&ドリルN2聴解 ポイント理解第3回 総まとめ 文法N2
10	試験の型式になれ実力を確認する	JLPT模試
11	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	ドリル&ドリルN2聴解 ポイント理解第4回 総まとめ 文法N2
12	N2レベルに必要な語彙、文法、慣用表現などに慣れる。	ドリル&ドリルN2聴解 ポイント理解第5回 総まとめ 文法N2
13	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	ドリル&ドリルN2聴解 概要理解 第1回 総まとめ 文法N2
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	ドリル&ドリル聴解 N2 総まとめ 文法N2
参考文献・資料等	適宜配布 適宜会話練習、定着確認
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	コミュニケーション I		(TGB271)
講義名（コード）	コミュニケーション I A		(TGB271A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	GB2	単位数	2単位
授業担当者	中村 久子	時間数	30時間
成績評価教員	中村 久子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が就業後の課題遂行能力を高めるために、幅広くかつ抽象的な日本語の話題が理解できるようになる。
全体的内容と概要	N1レベルの文法と聴解を中心に学び、細かなニュアンスの違いや音と音、言葉と言葉の間に隠された気持ちを理解し、国際的なコミュニケーション能力を伸ばす。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	N1レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	4/15 授業の進め方 ドリル&ドリルN1聴解 課題理解第1回 TRY! N1文法
2	N1レベルに必要な難解語彙、慣用表現などに慣れる。	4/22 ドリル&ドリルN1聴解 課題理解第2回 TRY! N1文法 課題配布
3		4/29 演習問題
4	場面に適した語彙や表現を正しく習得する。	5/13 ドリル&ドリルN1聴解 課題理解第3回 TRY! N1文法 課題提出
5	N1レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	5/20 ドリル&ドリルN1聴解 課題理解第4回 TRY! N1文法
6	N1レベルに必要な難解語彙、慣用表現などに慣れる。	5/27 ドリル&ドリルN1聴解 ポイント理解第1回 TRY! N1文法
7	場面に適した語彙や表現を正しく習得する。	6/3 ドリル&ドリルN1聴解 ポイント理解第2回 TRY! N1文法
8	N1レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	6/10 ドリル&ドリルN1聴解 ポイント理解第3回 TRY! N1文法
9	N1レベルに必要な難解語彙、慣用表現などに慣れる。	6/17 ドリル&ドリルN1聴解 ポイント理解第4回 TRY! N1文法
10		6/24 JLPT模試
11		7/1 JLPT模試 7/7 JLPT
12	場面に適した語彙や表現を正しく習得する。	7/8ドリル&ドリルN1聴解 概要理解第1回 TRY! N1文法 課題配布
13	N1レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	7/15 演習問題（海の日）
14	期末試験	7/22 学期試験
15	追試・フィードバック	7/29 Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	ドリル&ドリルN1 読解・聴解 TRY N1 文法
参考文献・資料等	適宜配布 適宜会話練習、文作、発表
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	コミュニケーション I		（ TGB271 ）
講義名（コード）	コミュニケーション I B		（ TGB271B ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	GB2	単位数	2単位
授業担当者	中村 久子	時間数	30時間
成績評価教員	中村 久子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が就業後の課題遂行能力を高めるために、幅広くかつ抽象的な日本語の話題が理解できるようになる。
全体的内容と概要	N2レベルの文法と聴解を学ぶ。試験形式の演習を行いJLPTのN2に合格する力をつける。また、フォーマルな言い方や書き言葉を学び、状況に応じた日本語を使い分けられるようにする。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	4/16 授業の進め方 ドリル&ドリルN2聴解 課題理解第1回 TRY!N2文法 文法
2	N2レベルに必要な語彙、文法、慣用表現などに慣れる。	4/23 ドリル&ドリルN2聴解 課題理解第2回 TRY!N2文法 文法 課題配布
3		4/30 演習問題
4	場面に適した語彙や表現を正しく習得する。	5/7 ドリル&ドリルN2聴解 課題理解第3回 TRY!N2文法 文法 課題提出
5	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	5/14ドリル&ドリルN2聴解 課題理解第4回 TRY!N2文法 文法
6	N2レベルに必要な語彙、文法、慣用表現などに慣れる。	5/21 ドリル&ドリルN2聴解 課題理解第5回 TRY!N2文法 文法
7	場面に適した語彙や表現を正しく習得する。	5/28 ドリル&ドリルN2聴解 ポイント理解第1回 TRY!N2文法 文法
8	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	6/4 ドリル&ドリルN2聴解 ポイント理解第2回 TRY!N2文法 文法
9		6/11 JLPT模試
10		6/18 JLPT模試
11		6/25 JLPT模試 7/7JLPT
12	N2レベルに必要な語彙、文法、慣用表現などに慣れる。	7/2 ドリル&ドリルN2聴解 ポイント理解第3回 TRY!N2文法 文法
13	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	7/9 ドリル&ドリルN2聴解 ポイント理解第4回 TRY!N2文法 文法
14	期末試験	7/16 学期試験
15	追試・フィードバック	7/23 Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	ドリル&ドリル聴解 N2 TRY!N2文法
参考文献・資料等	
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	プレゼンテーション I		（ TGB273 ）
講義名（コード）	プレゼンテーション I B2		（ TGB273B2 ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	GB2	単位数	2単位
授業担当者	酒井 京子	時間数	30時間
成績評価教員	酒井 京子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が就業後の課題遂行能力を高めるために、幅広くかつ抽象的な日本語の話題でやりとりができるようになる。
全体の内容と概要	前期は主に面接に必要な日本語力について学んでいく。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1		オリエンテーション（自己紹介・授業の説明）
2	身近な題材を理解し話し合うことができる。	読解厳選テーマ初中級 テーマ1 内容把握
3	自分の考えや意見を他者に伝える力を養う。	読解厳選テーマ初中級 テーマ1 発表
4	身近な題材から自分の母国を比較して考えることができる。	読解厳選テーマ初中級 テーマ2 内容把握
5	自分の母国を通して自分と言う人間について他者に説明する。	読解厳選テーマ初中級 テーマ3 発表
6	日本の問題について多様な観点から話し合うことができる。	読解厳選テーマ初中級 テーマ4 内容把握
7	一つの問題について多様な観点で検討し自分の意見をまとめる。	読解厳選テーマ初中級 テーマ4 発表
8	一つのテーマから未来について考える力を養う。	読解厳選テーマ初中級 テーマ5 内容把握
9	自分の意見や考えを伝えることで自分のアピールを行う。	読解厳選テーマ初中級 テーマ5 発表
10	自分の意見や考えを伝えることで自分のアピールを行う。	読解厳選テーマ初中級 テーマ5 発表
11	テーマを把握して適切な回答をする力を身につける。	読解厳選テーマ初中級 テーマ6 発表
12		読解厳選テーマ初中級 テーマ6 発表
13		前期のまとめ
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	適宜プリント配布
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	プレゼンテーション I		(TGB273)
講義名（コード）	プレゼンテーション I A		(TGB273A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	GB2	単位数	2単位
授業担当者	渋谷里美	時間数	30時間
成績評価教員	渋谷里美	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	プレゼンテーション

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が就業後の課題遂行能力を高めるために、幅広くかつ抽象的な日本語の話題でやりとりができるようになる。
全体的内容と概要	時事問題などを中心に現代社会における諸問題を多国籍の学生との意見交換や発表を通して深く多角的な視点で理解し、国際社会の一員としての教養を身につける。
授業時間外の学修	提示されたテーマについて理解を深めるために予習が必須である。
履修上の注意事項等	自身の考えをまとめ、明確に表現するため、積極的に授業に参加する姿勢が必要となる。期末試験として自己PRの発表を実施する予定。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	授業の内容・目的を理解することができる	ガイダンス（年間授業スケジュール） 目標設定
2	現代的な題材を理解し話し合うことができる①	読解厳選テーマ 10 上級 テーマ1 内容把握 『20日で合格N1』 第1回 文法
3	現代的な題材を理解し話し合うことができる②	読解厳選テーマ 10 上級 テーマ1 内容理解 ニュースについて必要な情報を得て、自身の考えをまとめる。
4	現代的な題材を理解し話し合うことができる③	読解厳選テーマ 10 上級 テーマ2 内容把握 『20日で合格N1』 第2回 文法
5	自分の考えや意見を他者に伝える力を養う。	読解厳選テーマ 10 上級 テーマ2 内容理解・意見交換 『20日で合格N1』 第3回 文法
6	身近な題材について他者の考えを文 け止めグループとしての意見をまとめる。	読解厳選テーマ 10 上級 テーマ3 内容把握 『20日で合格N1』 第4回 文法
7	現代的な題材を理解し話し合うことができる④	読解厳選テーマ 10 上級 テーマ3 内容理解・意見交換 『20日で合格N1』 第5回 文法
8	現代的な題材を理解し話し合うことができる⑤	読解厳選テーマ 10 上級 テーマ2 内容理解・意見交換 『20日で合格N1』 第6回 文法
9	時事問題① 社会的問題についてより深く調べることができる。	読解厳選テーマ 10 上級 テーマ3 内容把握 『20日で合格N1』 第7回 文法
10	時事問題② 社会的問題についてより深く調べることができる。	読解厳選テーマ 10 上級 テーマ4 内容把握 『20日で合格N1』 第8回 文法
11	現代的な題材を理解し話し合うことができる③	読解厳選テーマ 10 上級 テーマ4 内容理解・意見交換 テーマ（生教材）について正しく理解することができる。 『20日で合格N1』 第9回 文法
12	自分の考えや意見を他者に伝える力を養う。	テーマ（生教材）について正しく理解することができる。 『20日で合格N1』 第10回 文法
13	身近な題材について他者の考えを文 け止めグループとしての意見をまとめる。	テーマ（生教材）についてグループの意見を述べる。発表。
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	『日本語学習者のための 読解厳選テーマ10 上級』 『20日で合格N1 文法』
参考文献・資料等	適宜配布する。
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	プレゼンテーション I		(TGB273)
講義名（コード）	プレゼンテーション I B		(TGB273B)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	GB2	単位数	2単位
授業担当者	渋谷里美	時間数	30時間
成績評価教員	渋谷里美	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	プレゼンテーション

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が就業後の課題遂行能力を高めるために、幅広くかつ抽象的な日本語の話題でやりとりができるようになる。
全体的内容と概要	前期は主に面接に必要な日本語力について学んでいく。
授業時間外の学修	提示されたテーマについて理解を深めるために復習が必須である。
履修上の注意事項等	生活の中でニュースなどの生の日本語に触れるよう努めること。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	授業の内容・目的を理解することができる	ガイダンス（年間授業スケジュール） 目標設定
2	身近な題材を理解し話し合うことができる。	読解厳選テーマ初中級 テーマ1 内容把握・発表 漢字マスターN2
3	自分の考えや意見を他者に伝える力を養う。	読解厳選テーマ初中級 テーマ2 内容把握・意見をまとめる 漢字マスターN2
4	身近な題材から自分の母国を比較して考えることができる。	読解厳選テーマ初中級 テーマ3 内容把握・発表 漢字マスターN2
5	自分の母国を通して自分と言う人間について他者に説明する。	時事（ニュースなど） 内容把握 漢字マスターN2
6	日本の問題について多様な観点から話し合うことができる。	時事（ニュースなど） 内容把握 漢字マスターN2
7	一つの問題について多様な観点で検討し自分の意見をまとめる。	時事（ニュースなど） 発表 漢字マスターN2
8	一つのテーマから未来について考える力を養う。	読解厳選テーマ初中級 テーマ4 内容把握 漢字マスターN2
9	自分の意見や考えを伝えることで自分のアピールを行う。	読解厳選テーマ初中級 テーマ4 発表 漢字マスターN2
10	自分の意見や考えを伝えることで自分のアピールを行う。	読解厳選テーマ初中級 テーマ5 内容把握 漢字マスターN2
11	テーマを把握して適切な回答をする力を身につける。	読解厳選テーマ初中級 テーマ5 発表 漢字マスターN2
12	テーマを把握して適切な回答をする力を身につける。	時事（ニュースなど） 内容把握・意見交換 漢字マスターN2
13	前期の授業を振り返る	前期のまとめ
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	読解厳選テーマ25 初中級 漢字マスターN2
参考文献・資料等	適宜配布する
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネス日本語応用 I		（ TGB275 ）
講義名（コード）	ビジネス日本語応用 I B2		（ TGB275B2 ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	GB2	単位数	2単位
授業担当者	槌谷 智子	時間数	30時間
成績評価教員	槌谷 智子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が異なる母語を持つ他者と誤解なく意思疎通できるために、複雑な話題について事実や要点を明確に伝えられるようになる。
全体的内容と概要	N2の漢字と語彙を学ぶ。漢字については1年生で習ったことを復習しながら、新出漢字や語彙を増やす。就活やビジネスで使用する語彙を理解し、頻出漢字を書けるようになる。
授業時間外の学修	予習：漢字は事前に3回ずつ書いて意味を確認しておくこと。 復習：授業で学んだ漢字の読みと語彙を復習しておくこと。
履修上の注意事項等	配布したプリントは各自ファイルしておくこと。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	漢字の習得 語彙の習得	総まとめ漢字N2 第1週1日目2日目 パワードリル語彙 1回
2	漢字の習得 語彙の習得	総まとめ漢字N2 第1週3日目4日目 パワードリル語彙 2回
3	漢字の習得 語彙の習得	総まとめ漢字N2 第1週5日目6日目 課題 パワードリル語彙 3回 課題
4	漢字の習得 語彙の習得	漢字小テスト 総まとめ漢字N2 第2週1日目 課題FB パワードリル語彙 4回
5	漢字の習得 語彙の習得	総まとめ漢字N2 第2週 2 日目 3 日目 パワードリル語彙 5回 集中トレーニング
6	漢字の習得 語彙の習得	総まとめ漢字N2 第2週 4 日目 5 日目 パワードリル語彙 6回
7	漢字の習得 語彙の習得	総まとめ漢字N2 第2週6日目第3週1日目 パワードリル語彙 7回
8	漢字の習得 語彙の習得	漢字小テスト 総まとめ漢字N2 第3週 2 日目 パワードリル語彙 8回
9	漢字の習得 語彙の習得	総まとめ漢字N2 第3週 3 日目 4 日目 パワードリル語彙 9回
10	漢字の習得 語彙の習得	総まとめ漢字N2 第 3 週5日目6日目 パワードリル語彙 10回 集中トレーニング
11	漢字の習得	JLPT模試文字語彙 漢字小テスト 総まとめ漢字N2 第4週1日目
12	漢字の習得 語彙の習得	総まとめ漢字N2 第4週 2 日目 3 日目 パワードリル語彙 11回
13	前期の内容の理解と定着	前期のまとめ
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	パワードリル語彙 N2 総まとめ漢字 N2
参考文献・資料等	
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネス日本語応用 I		（ TGB275 ）
講義名（コード）	ビジネス日本語応用 I A		（ TGB275A ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	GB2	単位数	2単位
授業担当者	槌谷 智子	時間数	30時間
成績評価教員	槌谷 智子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が異なる母語を持つ他者と誤解なく意思疎通できるために、複雑な話題について事実や要点を明確に伝えられるようになる。
全体的内容と概要	N1以上のレベルの語彙を学び日本語語彙力を広げていく。また様々な語彙を使いこなせるようアウトプットの練習をしていく。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	語彙の習得 食べ物・飲み物の歴史について	20日で合格N1 語彙 第1日 J-PEAK UNIT1
2	語彙の習得 食べ物・飲み物の歴史について	20日で合格N1 語彙 第2日 J-PEAK UNIT1
3	語彙の習得 食べ物・飲み物の歴史について	20日で合格N1 語彙 第3日 J-PEAK UNIT1
4	語彙の習得 田舎・都会に住むかについて考	20日で合格N1 語彙 第4日 J-PEAK UNIT 2
5	語彙の習得 田舎・都会に住むかについて議	20日で合格N1 語彙 第5日 J-PEAK UNIT 2
6	語彙の習得 田舎・都会に住むかについて発	20日で合格N1 語彙 第6日 J-PEAK UNIT 2
7	語彙の習得 日本各地の魅力について考える	20日で合格N1 語彙 第7日 J-PEAK UNIT 4
8	語彙の習得 日本各地の魅力について議論す	20日で合格N1 語彙 第8日 J-PEAK UNIT 4
9	語彙の習得 日本各地の魅力について調べて	20日で合格N1 語彙 第9日 J-PEAK UNIT 4
10	語彙の習得 新しい技術の影響について考え	20日で合格N1 語彙 第10日 J-PEAK UNIT 5
11	模擬試験 新しい技術の影響について議論	JLPT模擬試験 J-PEAK UNIT 5
12	語彙の習得 新しい技術の影響について発表	20日で合格N1 語彙 第11日 J-PEAK UNIT 5
13	前期の内容の理解と定着	前期のまとめ
14	期末試験	期末試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	東京大学教養学部のアカデミック・ジャパニーズJ-PEAK 20日で合格N1 語彙
参考文献・資料等	
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネス日本語応用 I		（ TGB275 ）
講義名（コード）	ビジネス日本語応用 I B		（ TGB275B ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	GB2	単位数	2単位
授業担当者	槌谷 智子	時間数	30時間
成績評価教員	槌谷 智子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が異なる母語を持つ他者と誤解なく意思疎通できるために、複雑な話題について事実や要点を明確に伝えられるようになる。
全体的内容と概要	N2の漢字と語彙を学ぶ。漢字については1年生で習ったことを復習しながら、新出漢字や語彙を増やす。就活やビジネスで使用する語彙を理解し、頻出漢字を書けるようになる。
授業時間外の学修	予習：漢字は事前に3回ずつ書いて意味を確認しておくこと。 復習：授業で学んだ漢字の読みと語彙を復習しておくこと。
履修上の注意事項等	配布したプリントは各自ファイルしておくこと。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	語彙 お金について議論する	パワードリル語彙 1回 日本語会話ワークブック 3課
2	語彙 お金について発表する	パワードリル語彙 2回 日本語会話ワークブック 3課
3	語彙 見た目について議論する	パワードリル語彙 3回 課題 日本語会話ワークブック 2課 課題
4	語彙 見た目について発表する	課題FB パワードリル語彙 4回 日本語会話ワークブック 2課
5	語彙 ルールについて議論する	パワードリル語彙 5回 日本語会話ワークブック 1課
6	語彙 ルールについて発表する	パワードリル語彙 6回 日本語会話ワークブック 1課
7	語彙 結婚について議論する	パワードリル語彙 7回 日本語会話ワークブック 4課
8	語彙 結婚について発表する	パワードリル語彙 8回 日本語会話ワークブック 4課
9	語彙 コミュニティについて議論する	パワードリル語彙 9回 日本語会話ワークブック 5課
10	語彙 コミュニティについて発表する	パワードリル語彙 10回 集中トレーニング 日本語会話ワークブック 5課
11	模擬試験 大人について議論する	JLPT模試 日本語会話ワークブック 6課
12	語彙 大人について発表する	パワードリル語彙 11回 日本語会話ワークブック 6課
13	前期の内容の理解と定着	前期のまとめ
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	パワードリル語彙 N2 「読む」からはじめる日本語会話ワークブック
参考文献・資料等	
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネス統計学ⅠA		(TGB259)
講義名（コード）	ビジネス統計学ⅠA		(TGB259 A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	伊藤 玲	時間数	30
成績評価教員	伊藤 玲	講義期間	前期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	本授業では、企業の経営状況を財務面からとらえ、その動きと変化を理解し、ビジネス統計を学習することを目的としている。 具体的には、企業会計（簿記と数経営統計）の学習を通じて、ビジネスでのお金の動きをとらえていく。
全体の内容と概要	後期のビジネス統計学と合わせて、通年で簿記を学ぶ。各項目ごとに学習し、時間があれば、演習問題にトライする。前期は主に簿記用語や作業についての復習と演習を行っていく。
授業時間外の学修	日商簿記3級を目指す方は、本授業と問題集、資格試験対策練習を勧める。 授業外では、復習と表を作って書く練習をすることを勧める。
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	テーマ01 簿記の意義	オリエンテーションと簿記の意義について
2	テーマ02 財務諸表と簿記の5要素	簿記の全体像をつかむ、表をイメージする
3	テーマ03 日常の手続き	実際のビジネス取引を簿記にしてみるためのイメージ
4	テーマ04 商品売買Ⅰ	仕入れ、売上を簿記にする、三分法、掛け
5	テーマ05 商品売買Ⅱ	返品などの処理の際の手続き
6	テーマ06 現金・預金	現金・預金の考え方、簿記での表し方
7	テーマ07 小口現金	奨学支払いに利用している現金の簿記的処理
8	テーマ08 クレジット売掛金	主流になっているクレジットでの取引の簿記処理
9	テーマ09 手形取引	手形の意味と簿記処理方法
10	テーマ10 電子記録債権・債務	電子化された債権・債務の簿記処理
11	テーマ11 その他の取引Ⅰ	貸付・借入、利息、役員に対する金銭処理について
12	テーマ12 その他の取引Ⅱ	有形固定資産、未収入・未払い金、修繕・改良の簿記処理
13	テーマ13 その他の取引Ⅲ	仮払い金・借受金、給与、税金、諸会費の簿記処理
14	期末試験	期末試験、事前に範囲を確認し、その範囲での試験
15	フィードバックと全体のまとめ テーマ14 さまざまな帳簿の関係	期末試験結果のフィードバックと様々な帳簿の関係

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	TAC公式教材『よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級』
参考文献・資料等	TAC公式教材『よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記3級』
備考	日商簿記3級を目指す方は、本授業と問題集、資格試験対策練習を勧める。 授業外では、復習と表を作って書く練習をすることを勧める。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	マーケティング応用 I		（ TGB249 ）
講義名（コード）	マーケティング応用 I		（ TGB249 ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	伊藤 頌太郎	時間数	30時間
成績評価教員	伊藤 頌太郎	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本授業は実務経験者による授業科目である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	マーケティングに必要な知識を習得して応用できるようになる。
全体の内容と概要	各回に紹介するキーワードを理解し、主体的に考えを説明できるようにする。
授業時間外の学修	わからないキーワードを調べる。企業に関するニュースを見る。
履修上の注意事項等	講義形式だけではなく、ディスカッションも適宜取り入れ、成績に反映するので、社会に目を向けるようにしておく。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 50%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 20%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション	マーケティングとは？
2	マーケティングの基本概念	4P（製品・価格・流通・プロモーション）の概要
3	市場と消費者行動①	消費者心理・購買プロセス（AIDMA・AISAS）
4	市場と消費者行動②	セグメント・ターゲット・ポジショニング（STP分析）
5	競争環境と企業戦略	競争優位性の考え方（3C分析、SWOT分析）
6	中間テスト	
7	製品戦略（プロダクト）	製品ライフサイクル（導入期・成長期・成熟期・衰退期）
8	価格戦略（プライス）	価格設定の基本（コスト・バリュー・競争ベース）
9	流通戦略（プレイス）	チャネル戦略（直接販売・小売・EC・卸売の違い）
10	プロモーション戦略①	広告・PR・販売促進の基本（マスメディア・デジタル）
11	プロモーション戦略②	SNS・口コミ・インフルエンサーマーケティング
12	ブランド戦略	ブランドとは何か？ブランド価値の作り方
13	マーケティングリサーチ	市場調査の方法（アンケート・観察・インタビュー）
14	まとめ	
15	期末テスト	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし：プリント、レジュメを使用する。口
参考文献・資料等	必要に応じて、都度指示する。
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	商業ビジネス論Ⅰ		（ TGB251 ）
講義名（コード）	商業ビジネス論Ⅰ		（ TGB251 ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	伊藤 頌太郎	時間数	30時間
成績評価教員	伊藤 頌太郎	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本授業は実務経験者による授業科目である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	様々なビジネスを組織化するために必要な経営学の考え方を理解する
全体の内容と概要	各回に紹介するキーワードを理解し、主体的に考えを説明できるようにする。
授業時間外の学修	わからないキーワードを調べる。企業に関するニュースを見る。
履修上の注意事項等	講義形式だけではなく、ディスカッションも適宜取り入れ、成績に反映するので、社会に目を向けるようにしておく。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 50%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 20%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	経営学とは	ビジネスの仕組みを解き明かす学問への招待
2	企業論①	企業の本質とは何か：存在意義と社会へのインパクト
3	企業論②	企業の進化と未来：スタートアップからグローバル企業まで
4	経営管理①	成功するビジネスの裏側：管理プロセスの基本
5	経営管理②	マネジメントの力：成果を生むリーダーシップと意思決定
6	中間テスト	
7	組織①	人が集まる仕組み：組織構造のデザインと機能
8	組織②	チームの力を引き出す：文化、コミュニケーション、ダイナミクス
9	人的資源管理論	人が輝く組織をつくる：採用、育成、評価の実践
10	モチベーション論	人を動かす原動力とは：職場のやる気を引き出す方法
11	リーダーシップ論	ビジョンを共有する力：時代を超えるリーダーの条件
12	経営戦略論①	競争に勝つ戦略の作り方：市場分析とポジショニング
13	経営戦略論②	戦略を実行する力：計画から成果までの道筋
14	まとめ	
15	期末テスト	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし：プリント、レジュメを使用する。口
参考文献・資料等	必要に応じて、都度指示する。
備考	